

秋田県

公文書館だより

第31号

平成28年3月9日



全史料協全国大会展示会場・出羽一国御絵図複製を見る観覧者

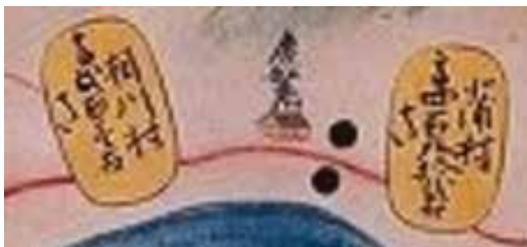
デジタルアーカイブに 新たな画像が登場！

① 出羽一國御絵図

(正保出羽国絵図控) 詳細画像

※六〇分割版

当館のデジタルアーカイブで従来から提供している画像は、データを合成して一枚にしたものです。全体を表示して見たい地域を拡大すると、詳細な画像を見ることができません。しかし上の写真は最大(二〇〇%)まで拡大したのですが、それでも村の名や高が見づらいという問題がありました。



この問題を解消するため、原寸大複製の作成に際して印刷用を使用した無圧縮TIFFファイルを使用し、またJPEGファイルに変換し、デジタルアーカイブに追加することになりました。原寸大複製と同様に、六〇枚に分割しています。下の写真は同



上：従来のデジタルアーカイブでの画像データ
下：追加した六〇分割版の画像データ

じ部分ですが、このサイズで拡大率は七五%であり、さらに拡大することができません。そして上の画像と比較しますと明らかのように、高精細な画像をご覧いただけるようになりました。

② 秋田藩家蔵文書 (モノクロー画像)

「秋田藩家蔵文書目録」に続き、

史料のデジタル画像も提供します。

原本は冊子ですので、一枚の文書が表と裏に記されています。こちらは当館写真帳で提供しているものと同じ、つまり冊をばらして撮影しておりますので、一枚の文書を一枚で見ることができ、冊子では見えない情報を見ることが出来ます。

なお画像は、冊単位で提供していません。したがって「佐竹義宣書状」のような史料名、「佐竹義宣」のようなキーワードで検索しても、お探しの画像をご覧いただけませんので、ご注意ください。各冊収録史料は、「秋田藩家蔵文書目録」でご確認ください。

③ 樋口九三氏編秋田藩家蔵文書 (モノクロー画像)

いわゆる樋口本とよばれるものです。現在当館では写真帳で提供しているものをデジタル化しました。秋田藩主の末裔佐竹侯爵家に仕えていた樋口九三氏が、佐竹家や秋田県庁等で調査した史料を解説・分類したもので、②や御文書が多くを占めます。

今後所蔵史料のデジタルデータ化を進め、随時アップしていきたいと考えております。

平成二十七年 寄贈史料

東山文庫拾遺

昭和二十年代、秋田市在住の個人が市内の古書肆から購入。

「東山文庫」の印があり、当館東山文庫旧蔵者東山太三郎氏収集史料であることがわかります。そこで右のように命名しました。東山氏収集史料、すなわち東山文庫は「公文書館だより」一二号をご参照ください。東山家から流出した時期は、不明です。「後水尾帝御集」・「昔物語」・「古刀鍛冶銘尽」・「東照公逸話」の四冊。

富永家文書

東京都柴辻俊六氏寄贈。

富永家は、佐竹家中角館組下給人です。組下支配は、佐竹北家です。七点中六点が「糸井」家の文書です。文書をおさめている状態にも「角館藩糸井家文書」と記されています(角館藩は実在しません)。しかし、文政十年(一八二七)、「糸井」から「富永」に改めた家の伝来文書です。秋田藩文書所に提出した系図の控や知行地関係の文書等です。

貴重な史料をご寄贈いただき、ありがとうございます。

「藩政期の秋田」

前期 八月二十九日～九月二十三日
後期 十月三十一日～十一月三十日

今年度の企画展は「藩政期の秋田」と題し、佐竹氏の秋田入部から享保期にかけての史料を四つのテーマごとに分けて紹介しました。

今回の大きな特徴は、「久保田城御城下絵図」など、大型絵図の原本を展示したことです。これまでの企画展では史料保存の観点から、大型絵図は複製やパネルでの展示を行ってきました。ですが、実際の史料が持つ雰囲気を感じられるだけ味わっていただきたいと考え、前後期合わせて八点の絵図を原本で展示しました。

実際に原本を展示しようとする、様々な問題がありました。軸装されていない絵図で大きさが展示用のガラスパネルに収まらないもの、軸装されていても表装の劣化が進み、壁面に掛けられないものなどは、やむを得ず複製展示に切り替えました。また何点かは絵図本体に比べて表装部分の面積が広く、予想以上の大きさに展示作業が難航したものもありました。



展示した絵図は時代ごとの久保田城下を描いたものが中心で、「外町間敷屋敷絵図」（寛文三年）などは現在の秋田市大町付近と比べながら見る方が多くいらつしやいました。他に「秋田領給人町絵図」（享保十三年）から前期は大館・刈野、後期は横手・松山の町絵図を展示しました。「横手絵図」は特に大型で、下端の部分まで広げられなかったのですが、その分、屋敷割の文字などははっきり見ることができました。展示期間を通して家族連れなど、



複数で訪れる方々が目立ちました。壁面に大型絵図をシンプルに展示したことで、親しみやすかったのではないかと思います。公文書館に馴染みのない方にも、様々な史料を見ていただくいい機会になったのではないのでしょうか。

なお、「藩政期の秋田」のパネルレットは閲覧室に設置しております。史料としてもご利用いただけるよう、町絵図などの拡大版を掲載しておりますので、どうぞご利用ください。

「岡本元朝日記」

第二巻

第二巻は、元禄十四年（一七〇二）十月から同十六年（一七〇三）二月までを収録しています。元禄十四年（一七〇二）十月六日、記主岡本元朝は秋田藩家老に任じられ、没するまでその地位にありました。第二巻は、秋田藩家老時代パートIといえます。

元朝は藩を総括する家老に就任しましたので、相手番及び修史事業の責任者だった第一巻とは異なる記載が多くみられます。その詳細は、実際に手にとりご覧ください。

岡本元朝日記第二巻は、第一巻同様に消費税抜き四千円で頒布しております。ご購入希望の方は、左記までお申し込みください。この他に、当館が編集した宇都宮孟綱日記第二～八巻（各冊消費税抜き五千円）、絵図図録（消費税抜き二千円）も取り扱っております。

〒〇一〇九九
秋田市寺内字三千刈一〇〇一
秋田活版印刷株式会社
電話 〇一八八八三三〇〇

今年度の公文書館講座は、「古文書解読講座」と「アーカイブズ講座」の二本立てで開催しました。

「古文書解読講座」は、当館所蔵の古文書の解読を通して、歴史に触れる講座です。

本年度は一回一回を独立した講座として開催し、興味のある回に、一回ごとに参加していただくこととし

ました。

第一回は、はじめて古文書にふれる方を対象としましたが、第二回以降は、当館所蔵史料を読み進めていく形で実施しました。難しさを感じられた回もあったようですが、途中で笑いが出る回もあり、興味に応じて受講していただけたのではないかと思います。

古文書解読講座

	実施日	テ ー マ
第1回	7/ 3(金)	はじめての古文書
第2回	7/ 3(金)	初期学館運営の記録
第3回	7/10(金)	郷土資料を読む
第4回	7/10(金)	伊勢御代参道の記
第5回	7/17(金)	中世公家文書を読む
第6回	7/17(金)	学館祭酒の日記を読む
第7回	7/24(金)	中世武家文書を読む
第8回	7/24(金)	狩野良知の对外政策論を読む

アーカイブズ講座 (生涯学習センターと共催)

	実施日	テ ー マ
第1回	7/31(金)	秋田を走った鉄道馬車
第2回	8/28(金)	企画展「藩政期の秋田」をみる

「アーカイブズ講座」は、秋田県生涯学習センター主管の秋田スマイルカレッジ連携講座として、生涯学習センターを会場に、公文書館の活動や歴史資料の保存活動についての理解を深める講座です。

一回目は、当館所蔵資料から、明治二十二年に創業した、後に秋田市電となる秋田馬車鉄道会社と、大館でも大正時代に計画されていた幻の鉄道馬車について紹介しました。二回目は、企画展「藩政期の秋田」開催を前に、そのみどころを紹介しました。どちらの回も、史料を残していくことの意義を、少しでも感じていただけたのではないかと思います。

参加者は、古文書解読講座が延べ二六七名、アーカイブズ講座が延べ七九名でした。いずれの講座も定員を上回るお申し込みをいただき、心苦しくもお断りせざるを得なかった状況がありました。今後の実施にあたっては、受付方法についても検討していきたいと思えます。

多くの方にご参加いただき、ありがとうございました。



県政映画上映会 秋田昭和の時代 映像アーカイブ

今年度も八月二十九日（土）と十一月一日（日）に、当館三階多目的ホールにて、県政映画上映会を開催しました。過去六年は昭和三十年代の映像を主に上映してきましたが、

今年度は四十年代の映像にスポットを当て、副題も「秋田昭和の時代映像アーカイブ」としました。

八月の上映会では、「県の記念日」制定五〇周年にちなみ、制定年の昭和四十年頃のニュースを中心に上映しました。県の記念日と同じく、第三日曜日を「家庭の日」に定めたのも五十年前。当時を生きた方々にとっても「全国に先駆けて秋田県が

家庭の日を設定したのは知らなかった」（五十代、男性）と新たな発見があったようです。

十一月の上映会では、昭和四十四年に明治一〇〇年記念事業・八郎潟干拓記念として開催された「秋田博」（秋田農業大博覧会）を上映しました。秋田博は、秋田市の臨海工業用地を主会場、干拓事業で誕生した大潟村を八郎潟会場に、五十五日間で一〇〇万人の観覧客を動員した当時の一大祭典でした。来場者からは「秋田の時代の変化と高度成長時代を感じました。今後も秋田が成長してほしいと思います」（六十代、男性）との感想をいただきました。

県政映画上映会

秋田昭和の時代 映像アーカイブ



昭和40年「家庭の日」制定



昭和41年「県の記念日」を祝う一風祭り



昭和34年「県庁舎の建設」

【日時】 平成27年

8/29（土）

1回上映 午前11時～正午
2回上映 午後2時～午後3時

【会場】

秋田県公文書館
3階多目的ホール
(県立図書館と併設)

郷土秋田のニュース映像を5本上映

昭和41年9月 「県の記念日」を祝う/若い力-明日の農村をなう-（県立雄代農業高校）
昭和43年2月 豪雪について移動県庁/千秋の塔にあると雪/雪山で冬を越す牛 ほか
昭和34年 県庁舎の建設〜焼失した県庁舎の新庁舎が八幡地区に昭和34年竣工
昭和40年2月 「家庭の日」制定/ふるさと散歩（湯沢市）
昭和44年4月 「八郎潟干拓工事」完成/大沢しの風消費者生活相談所 ほか

【主催】 秋田県公文書館

〒010-0952 秋田県山王新町14-31
電話 018-898-8393 FAX 018-898-8393

平成27年度 第1回上映会ポスター

平成二十八年度も二回の上映会を開催しますので、ぜひご来場ください。

公文書の引渡し・公開状況

県の各課所で作成され県庁舎地下書庫などで保存されている公文書は、保存期間経過後に当館へ毎年引き渡されます。前年度知事部局から引渡しを受けた件数は約四、四〇〇件（約六、九〇〇冊）です。これらは、毎年当館の基準により評価・選別を行い、後世に継承すべき県政資料として利用者への公開等に備え、当館の書庫に保存します。

一方、当館に現在保存されている公文書のうち作成後三十年経過したものについては、毎年利用者への公開に向けて個人のプライバシーを侵害する情報があるかどうかを主眼に点検し、作成原課所との協議を経て、目録作成・データベース登録など公開に向けた作業を行っています。

平成二十七年年度に新たに公開対象とした公文書の内訳は下表のとおりで、合計一、一〇三件です。どなたでもカウンターへ閲覧請求の上、原本を（非公開情報は被覆の上）ご覧になれますのでお気軽にご利用ください。

平成27年新規公開状況

新規公開の候補とした公文書		1,851件	
内訳	公開と決定	1,103件	
	非公開と決定	748件	
	理由	非公開情報が多数含まれている（※1 ※2）	535件
		作成原課で現在も利用している（※2）	213件

※1 非公開とすべき年数が満了した時に公開となる

※2 情報公開条例による公開請求対象となる

引渡し・保存状況

	引渡件数	保存件数	保存率
知事部局 (平成26年度分)	4,361件 (6,896冊)	654件 (1,085冊)	15.0%
各行政委員会 (平成25年度分)	66件 (97冊)	60件 (65冊)	90.9%

全国「秋田」大会 大仙市にて開催される

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（全史料協）の全国大会が、秋田県、大仙市などとの共催で、平成二十七年十一月十二日と十三日の二日間にわたり開催されました。

全史料協は、全国の公文書館、文書館、図書館、歴史資料館、自治体



史編さん室、および大学史料室、そしてこれらの機関の仕事に関わる方々が連携して、記録史料の保存利用活動の振興に寄与することを目的としている団体です。

会場となった大仙市は、平成二十八年度の公文書館開設を目指しており、実現すれば東北の市町村レベルでは初めてとなります。その設置事業の普及・広報の一環として、今回の全国大会を誘致したものです。全史料協の全国大会が公文書館未設置の自治体で開催されるのは、四十一回目にして初めてのことでした。

全史料協でも、大仙市の意欲を受けて、大会テーマを「新たな史料保存・利用の充実を目指して」と定め、自治体のアーカイブズの充実を趣旨とする大会を目指しました。自治体、特に市町村での公文書館の設置、もしくは公文書館的機能を備えられるか、ということ念頭に置き、そのための考え方や取り組みの参考となる研究テーマを選んだということです。

初日の午前には、視察研修が行われました。参加者は、明治十六年から現在に至るまでの旧大曲市及び大仙市の永年文書が保管されている中仙支所や、池田家文書やその他の地域資料が保管されている浜蔵の保管状況を見学しました。



二日間に渡った分科会・研修会では、「公文書管理法の下での国の取組等について（アーカイブズ入門）」、「博物館のない自治体の歴史資料保全活動（宮城県白石市の事例）」、「市民のための公文書等管理とすることを」、「利用者の視点

に立った公文書館」、「学校アーカイブズと地域の組織・団体アーカイブズの保存のために（調査・研究委員会報告）」が開催されました。



大会二日目には、全体テーマ研究会が行われました。始めに基礎的自治体として公文書館や公文書館機能を設け、地域資料の保存・活用に取り組んだ先行事例が三市町から報告されました。

地元大仙市からは、公文書・地域資料の保存・利用とアーカイブ構想について、現在のような積極的な取

り組みに至った経緯、保存と利活用の現状と苦勞、何度も頓挫しかけながら来年度の開設予定にまでこぎ着けた公文書館の設置、その意義などが報告されました。



常陸大宮市からは、小学校の廃校舎を利用した文書館の設置経緯と実際に運営を開始してからの現状と課題について報告があり、「内外から問い合わせが多数寄せられた。どんな施設か見ようと立ち寄る人も多い。市立公文書館設置のインパクトを感じた」と感想を語っていました。

群馬県中之条町からは、博物館に公文書館機能を付与した中之条町歴史と民俗の博物館「ミユゼ」の概要とそれに伴う公文書管理事務の取組、歴史公文書の選別収集と保存・公開について報告がありました。

これらの報告の後、司会・報告者にフロアを交えて全体討論が行われ、「自治体での公文書館の成功は職員への啓発にかかっている」「レファレンスについては対応できないことが多く悩んでいる」「レファレンスには、ネットワークの構築や教育との連携が解決策の一助になるのではないか」といった意見交換が行われました。最後に司会が「地域での縦・横の連携が様々な形で融合し、新しい館を生み出す力になっていくのではないか。大会テーマのとおり、全史料協の場が大仙市の大応援団であると共に全国の自治体の取り組みの応援団であって欲しい」とまとめ

ました。

大会中に行われた機関会員展示・ポスター展示・協賛企業展示には、十二機関四社が参加し、当館からも出羽一國御絵図複製が展示され、多

全史料協全国大会 記念講演会

全国大会初日の十一月十二日、初代の公文書管理担当大臣を勤めた上川陽子前法相・衆議院議員の記念講演会が行われました。上川議員は、公文書管理法の制定に尽力されたほか、現在も「世界に誇る国民本位の新たな国立公文書館の建設を実現する議員連盟」の幹事長として公文書館・公文書管理の分野に積極的に取り組んでおられます。

演題は、「公文書管理、そして公文書館への思いと期待」。

上川議員は、「公文書館は、その必要性を一般に理解してもらうのが難しい施設だが、設置は未来への意味のある投資である。公文書館を開設して良かったと言われる日が必ず来る。自信、誇りを持って事業を進めてもらいたい」と述べられました。

くの観覧者が集まりました。

今大会には、全国から二〇〇人近い会員が参加しました。「大仙市と秋田県のもてなしが良かった」と大変好評のうちに大会を終えました。

このほか、公文書管理法制定に関わる舞台裏などを話され、一般市民を含めた約五〇〇人の観衆は熱心に聞き入っていました。



ギャラリートークで公文書館所蔵資料を紹介

十月二十四日から十一月三日まで秋田県読書フェスタとして、県及び市町村の図書館や公民館ほか文化施設で関連行事が開催され、秋田県公文書館もこれに参加しました。

十一月一日(日)午後、当館エントランスホールにおいて、秋田県立図書館、あきた文学資料館、秋田県公文書館の順番で、所蔵資料数点を紹介するギャラリートークを行いました。

各文化施設の特徴を活かし、図書館が貴重書籍、文学資料館が作家の直筆原稿、そして公文書館は戦前県庁文書を紹介しました。戦前県庁文書は、県指定有形文化財「秋田県行政文書」二〇、七四八点の一部です。公文書館で紹介した資料は、次のとおりです。

- ①秋田県庁開庁布告(明治五年)、②大礼服の図版(同五年)、③大日本帝国憲法(同二十二年)、④第一次大戦時の対独宣戦布告(大正三年)、⑤日本石油秋田製油所の施設配置図(昭和十七年)、⑥各郡全図より山本・南秋田・由利



郡全図(明治十八年)の六点です。拡大写真パネルと複製絵図も使用し細部をお客様に説明しました。

特に注目を集めたのは、⑥各郡全図でした。明治の町村合併前の作成で旧町村名と区域を記載していますが、さらに合併後に新町村名を朱書きし新区域を着色したものです。地域の行政区画の変遷が分かり、お客様も身近に感じられた資料でした。

平成二十八年度

行事予定

◆企画展

「公文書で見る秋田の石油開発」
(仮)

前期 8月27日～9月27日
後期 10月29日～11月28日

◆公文書館講座

古文書解読講座

7月1日・7月8日・7月15日・

7月22日

アーカイブズ講座

7月29日・10月28日

於・県生涯学習センター

◆県政映画上映会

第一回 8月27日(土)

第二回 11月3日(木)

◆古文書相談日

4月26日・5月10日・5月24日・

6月14日・6月28日・7月26日・

8月9日・9月13日・9月27日・

10月11日・10月25日・11月8日・

11月22日・12月13日・1月10日・

1月24日・2月14日・2月28日・

3月14日

公文書館

利用案内

◆開館時間

平日 9時～19時

土日祝日 10時～18時

◆休館日(平成28年度)

4月6日・5月11日・6月1日・

7月6日・8月3日・9月7日・

10月5日・11月2日・1月4日・

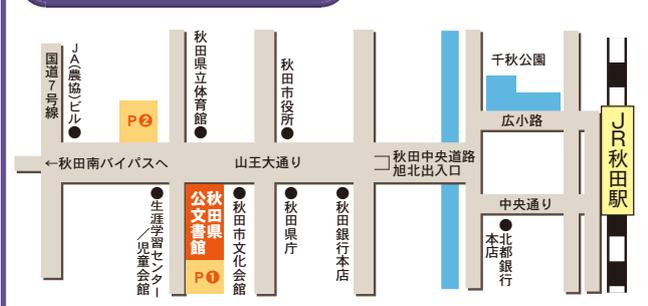
2月1日・3月1日

年末年始 12月28日～1月3日

特別整理期間(6月7日～13日・

12月6日～12月12日)

周辺案内図



編集発行：秋田県公文書館
〒010-0952 秋田市山王新町14-31 電話018(866)8301
URL <http://www.pref.akita.lg.jp/kobunsyo/>

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。